

I  
大学の概要

財  
政

我が国における国立大学の財政は、国家予算に基づく文部省の国立学校特別会計によってまかなわれている。国家予算は単年度制であり、

かつ歳入、歳出が別個に取り扱われていることなどから、滋賀医科大学における財政の収支バランスを評価することは必ずしも容易ではない。

歳入 (決算額)

平成10年度の本学における歳入総額は101億8300万円であり、その内訳は附属病院91億2000万円、授業料等5億5000万円、雑収入2億9000万円となっている(表1)。

平成6年度の89億3200万円に比べ過去5年間で約12億5000万円の増加を示しているが、この増加は主に附属病院収入の増加(11億円)、授業料の増加(1億3000万円)による。

表1 歳入決算額 (千円)

区分(項)	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
附属病院収入	8,007,468	8,218,342	8,653,166	8,935,260	9,117,108
授業料及入学検定料	435,907	465,482	495,972	538,360	553,446
雑収入	488,755	473,475	525,100	605,989	291,426
産学連携等研究収入	-	-	-	-	221,155
合計	8,932,130	9,157,299	9,674,238	10,079,609	10,183,135

歳出 (決算額)

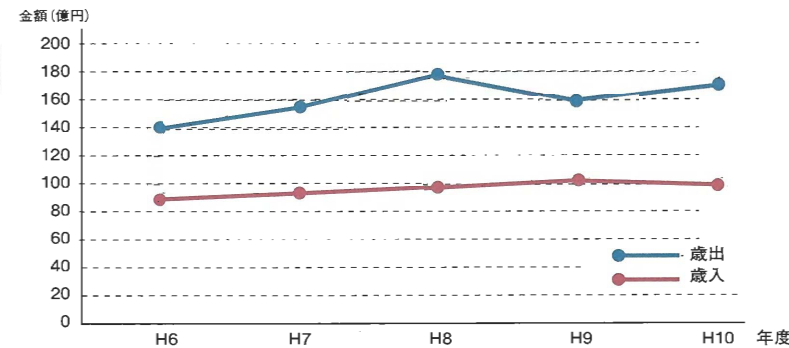
平成10年度の歳出決算額は171億円であり、その内訳は附属病院の歳出が111億2000万円、国立学校41億8000万円、施設整備費16億円となっている(表2)。

平成6年度に比し約30億円の増加であるが、増加を示した主要な項目は附属病院(18億8000万円)、施設整備費(7億1000万円)、国立学校3億円である。

表2 歳出決算額 (千円)

区分(項)	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
国立学校	3,873,289	4,078,769	4,223,764	4,306,834	4,180,213
大学附属病院	9,242,754	9,645,809	9,773,842	10,347,574	11,120,460
施設整備費	880,766	1,947,467	3,595,516	1,021,378	1,596,473
文部本省	29,155	32,069	30,636	28,425	27,910
産学連携等研究費	-	-	-	-	175,744
合計	14,025,964	15,704,114	17,623,758	15,704,211	17,100,800

図1 歳入・歳出バランスの年次推移



歳入、歳出のバランス

単純に過去5年間各年度の歳入額と歳出額を比較してみると、以下のごとく全て歳出超過、即ち赤字と云うことになる(図1)。

平成6年度	50億9383万円	(施設整備費約9億円)
平成7年度	65億4681万円	(同19億円)
平成8年度	79億4952万円	(同36億円)
平成9年度	56億2460万円	(同10億円)
平成10年度	69億1766万円	(同16億円)

ただ、このような単純な比較は本学の財政状態を正確に把握することにはならないと思われる。例えば、平成8年度には79億円を超える歳出超過となっているが、その原因は施設整備費が35億9500万円と前年比16億4800万円増、次年度比にすると実に25億7000万円増となっていることである。本増加分は看護学科校舎建設費が配分されたためであり、歳出増加とみなすことには問題がある。前述のごとく、各年度の歳出超過額と施設整備費額とはかなり相関していると考えてよい。

附属病院の財政

附属病院の財政規模は、本学全体の歳入で89%、歳出で65%を占めているので、本項で別個に取り上げてみたい。

平成9年度、10年度における歳入額は各々89億3526万円、91億1710万円であり、同等の規模である他新設医科大学附属病院の歳入額と比較すると上位グループに属すると思われる(図2)。平成6年度の歳入額は80億円であったので、5年で約11億円の歳入増を示したことになる。

歳出額であるが、平成9年度103億4757万円、平成10年度111億2046万円となっており、他新設医科大学の中では多い部類に属している(図3)。なお、過去5年間の歳出増加額であるが、平成6年度の92億4000万円に比し平成10年度には約18億8000万円の増加となっている。この増加の内訳をみると、主要なものとして校費6億円、人件費5億円、医療費5億円等が挙げられる。

附属病院のH9年度、H10年度歳入出調べ [他大学との比較]

